# 若宮丸漂流民の足跡と彼らが見たもの

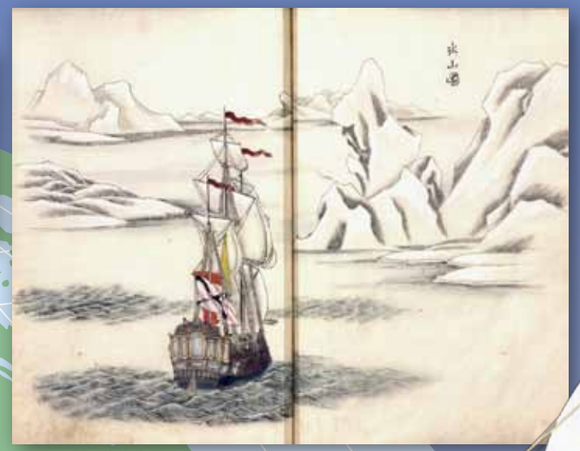
4ロシア皇帝アレクサンドル1世夫妻★

4シベリアを横断した馬車★

3バイカル湖での網漁★

2凍った川を走る馬ソリ★

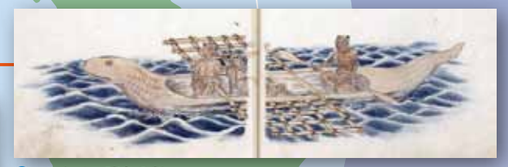
2馬での夏の旅★


2ロシア船で氷山を見る★

千石船若宮丸 模型

1アリュート人の男女・少女と穴のような住居★

5ハワイ諸島の男女★


5マルケサス諸島の船★

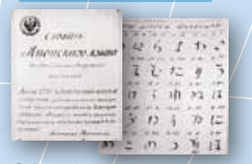
5マルケサス諸島の男女★

4巨大な地球儀の内部がプラネタリウムになっていた★

4気球ショーの気球と見物する人々★

6長崎に停泊したナジェージダ号 九州諸藩の船に取り囲まれている★

5⑥ロシア使節レザーノフ★


5「露日辞書」

**ロシア皇帝に謁見**
6人がロシア残留を申し出る

**働きながら7年暮らす**
船親父の吉郎次が病死

**シベリア横断①**
酷暑・極寒の悪路の旅で
1人が病死

ベーリング海で
流氷に乗り上げる

**小島に漂着**
船頭の平兵衛が病死
アリュート人に助けられ
ロシア人の船で
オホーツクに向かう

**5ヶ月の漂流**
16人全員が生き延びる

**世界一周就航船**
**ナジェージダ号で航海**
津太夫・儀兵衛・左平・多十郎の他
残留組の善六も通訳として乗る

劇場やプラネタリウム
気球ショーなどを見物

**シベリア横断②**
昼も夜も馬車で走り続け
3人が病気落伍

**2ヶ月の幽閉生活**
多十郎が自殺未遂

4人の見聞をもとに
大槻玄沢らが
「環海異聞」を著す

**帰郷**
津太夫・儀兵衛
左平・多十郎が
12年ぶりに
故郷に帰る

善六 下船

再び赤道を越える

赤道を越える

全身刺青の
島人を見る

1年2ヶ月の航海中に
レザーノフと善六が
「露日辞書」を編纂

南極大陸との海峡で
暴風に揉まれ
遭難しそうになる

ペテルブルグ
コペンハーゲン
ファルマス
モスクワ
イルクーツク
バイカル湖
ヤクーツク
オホーツク
ペトロパヴロフスク
アリューシャン列島
石巻
長崎
カナリア諸島
テネリフェ島
ハワイ諸島
オアフ島
マルケサス諸島
ヌクヒヴァ島
サンタ
カタリナ島
ホーン岬

0 2000 4000
Km

★印の図版はすべて宮城県図書館所蔵の「環海異聞」写本より

## 若宮丸漂流民年表

※日付は和歴（旧暦）

| 年 | 月日 | 出来事 |
|---|---|---|
| 1793 | 寛政5年（一七九三） | |
| | 11月27日 | 若宮丸、江戸を目指し石巻出港 |
| | 11月29日 | 若宮丸、塩屋崎沖で遭難 |
| 1794 | 寛政6年（一七九四） | |
| | 5月10日 | 若宮丸、アリューシャン列島の小島に漂着 |
| | 6月8日 | 船頭の平兵衛死亡 |
| | 6月13日 | 漂流民15人、ナアツカ港到着 |
| 1795 | 寛政7年（一七九五） | |
| | 4月3日 | ナアツカ出港 |
| | 6月28日 | 漂流民15人、オホーツク着 |
| | 8月18日 | 儀兵衛・善六・辰蔵、オホーツク発 |
| 1796 | 寛政8年（一七九六） | |
| | 1月24日 | 儀兵衛・善六・辰蔵、イルクーツク着 |
| | 3月 | 善六・辰蔵、洗礼を受けロシアに帰化 |
| | 5月上旬 | 佐太夫・左平・銀三郎・茂次郎・多十郎、オホーツク発 |
| | 7月3日 | 吉郎次・津太夫・民之助・市五郎・八三郎・清蔵・巳之助、オホーツク発 |
| | 10月23日 | 市五郎・ヤクーツクで死去 |
| | 11月 | 佐太夫・左平・銀三郎・茂次郎・多十郎、イルクーツク着 |
| | 12月 | 吉郎次・津太夫・民之助・八三郎・清蔵・巳之助、イルクーツク着 |
| | | 民之助・八三郎、洗礼を受けロシアに帰化 |
| 1797 | 寛政11年（一七九九） | |
| | 2月28日 | 船親父の吉郎次、死去 |
| | 11月27日 | 若宮丸船主米沢屋平之丞、石巻禅昌寺で七回忌を行い、供養碑を建立 |
| 1798 | 享和2年（一八〇二） | |
| | 7月22日 | ロシア政府、世界周航船ナジェージダ号と僚船ネヴァ号の派遣を正式決定（世界周航探検隊長兼遣日修好使節レザーノフ、ナジェージダ号艦長クルーゼンシュテルン） |
| 1799 | 享和3年（一八〇三） | |
| | 3月7日 | 漂流民13人、サンクトペテルブルグに向け出発 |
| | 3月9日 | 佐太夫・清蔵、病気のため落伍 |
| | 4月上旬 | 銀三郎、ベルミで病気のため落伍 |
| | 4月26日 | 漂流民10人、ペテルブルグ着 |
| | 5月16日 | 漂流民10人、アレクサンドル1世に謁見 |
| 1800 | 6月17日 | 帰国を希望した儀兵衛・津太夫・左平・多十郎と通訳の善六、ナジェージダ号でクロンシュタット港を出帆 |
| | | すでに帰化していた民之助・八三郎・辰蔵に加え、茂次郎・巳之助もペテルブルグで洗礼を受けてロシアに帰化し、残留する |
| 1801 | 7月4日 | ナジェージダ号、デンマーク・コペンハーゲン着 |
| | 8月13日 | イギリス・ファルマス着 |
| | 9月5日 | カナリア諸島テネリフェ島着 |
| | 11月8日 | ブラジル・サンタカタリーナ島着 |
| 1802 | 文化元年（一八〇四） | |
| | 3月27日 | マルケサス諸島着 |
| | 6月9日 | カムチャツカ・ペトロパブロフスク入港 |
| | 8月5日 | ペトロパブロフスク出港 |
| | | 善六、下船を命じられ当地に残る |
| 1803 | 9月6日 | ナジェージダ号、長崎着 |
| | | 上陸を許されず |
| | 11月17日 | レザーノフ以下ロシア人16人とレザーノフ以下ロシア人16人と漂流民4人、上陸を許されるも梅ヶ崎仮館に軟禁 |
| | 12月17日 | 多十郎、自殺未遂 |
| 1804 | 文化2年（一八〇五） | |
| | 3月6日～9日 | 3回にわたる日露会談 |
| | 3月10日 | 漂流民4人、日本側に引き渡される |
| | 3月19日 | ナジェージダ号、長崎を出航 |
| | 10月20日 | 漂流民4人、仙台藩に引き渡され江戸に向かう |
| | 12月18日 | 漂流民4人、江戸到着 |
| | 12月20日 | 江戸仙台藩邸で藩主の伊達周宗に謁見 |
| | 12月25日 | 大槻玄沢・志村弘強、漂流民の尋問を始める |
| 1805 | 文化3年（一八〇六） | |
| | 2月下旬 | 取り調べを終え、漂流民4人、江戸を発ち故郷に帰る |
| | 4月1日 | 多十郎、室浜で病没（36歳） |
| | 9月3日 | 儀兵衛、室浜で病没（45歳） |
| 1806 | 文化4年（一八〇七） | |
| | 4月 | 大槻玄沢、『環海異聞』を藩主の伊達周宗に呈上 |
| | 7月26日 | 津太夫・左平・箱館で若年寄の堀田正敦（周宗の後見人）蝦夷地巡検の際、ロシア情報を提供 |
| 1807 | 文化10年（一八一三） | |
| | 9月19日 | 善六、ゴローニン事件解決交渉のロシア側通訳として箱館に上陸 |
| | 文化11年（一八一四） | |
| | 7月29日 | 津太夫、寒風沢で死去（70歳） |
| | 文政12年（一八二九） | |
| | 4月12日 | 左平、寒風沢で死去（67歳） |